



天文学の扉を開こう

11月の夜空

ペガサス座51番星

吉野彰さんのノーベル化学賞受賞は、たいへん大きなニュースになりましたが、天文学関連はというと、実はノーベル物理学賞のほうなのです。

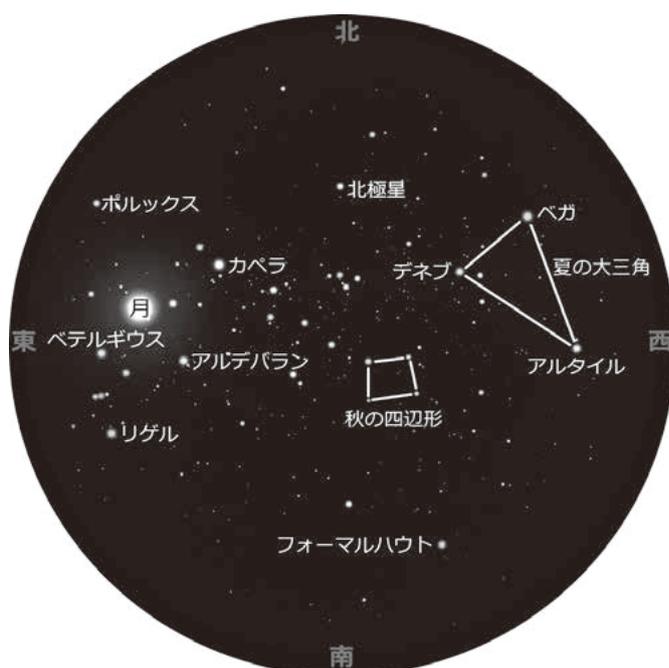
今年のノーベル物理学賞は、太陽系外惑星の発見や宇宙論を通じ、宇宙についての人類の理解を大きく前進させた、スイス・ジュネーブ大学のミシェル・マイヨール博士、その弟子のディディエ・ケロー博士、および、米国・プリンストン大学のジェームズ・ピーブルス博士に贈られました。

マイヨール博士と当時大学院生だったケロー博士は、1995年「恒星の周りを回る太陽系外惑星」を初めて発見しました。厳密に言うと、「初の太陽系外惑星の発見」は、この3年前の1992年、ポーランドのアレクサンデル・ヴォルシュチャン博士によってなされました。しかし、その中心にあったのは「パルサー」と呼ばれる高速で回転する非常に密度の高い特殊な星でした。もっと普遍的な恒星の周りを回る惑星を発見したということで、マイヨール博士たちの業績が高く評価されたわけです。

マイヨール博士たちは、ペガサス座51番星という地球から約50光年の距離にある太陽によく似た5.5等級の恒星が、その周りを回る惑星のわずかな重力によって、4.2日の周期でふらついているのを検出しました。このことは、木星の半分ほどの質量を持つ巨大惑星が、ペガサス座51番星からわずか水星軌道の1/8しか離れていない軌道を公転していることを意味しています。恒星にこれほど近い軌道を巨大惑星が公転しているのは、予想外の発見でした。

これ以降、系外惑星の探索が盛んに行われるようになり、今では4千個以上の系外惑星が見つかっていて、地球に近いサイズを持つ岩石質の惑星も多数見つかって

います。ペガサス座51番星は、太陽以外の恒星にも惑星系があるということを知って初めて実証した記念碑的な天体というわけです。



11月のぐんま天文台のイベント

・23日(土・祝) 双眼鏡で天体を探そう

○星図の説明

11月15日午後9時の高山村の星空。
月初めの午後10時、月末の午後8時頃にも
同じ星空になります(「月」を除く)

リトルミュージアム

「ハッピーハロウィン!かぼちゃのバッグを作りました!」



わた なつき ちゃん
「大きくなったら、「ショートケーキ屋さん」になりたいです!」



つづき さくら ちゃん
「大きくなったら、「ファンタミラージュの明日海サキ」になりたいです!」



わたなべ そういちろう くん
「大きくなったら、「ラグビー選手」になりたいです!」

♪高山村の情報♪

村内のイベント情報やさまざまなニュースをたっぷりお届け!

○毎月配信

「月刊 たかやまガジン」

毎月15日発行している

メールマガジンです!

登録は ouen.takayama@gmail.com
にお名前をご明記の上メールを送信してください。



○「高山村役場 ブログ」

<http://tkym-yakuba.jugem.jp/>



○Facebookページ

是非いいね!をお願いします!

「群馬県高山村」で検索!

<https://www.facebook.com/gunmatkym/>



こちら「10代目緑のふるさと協力隊」

こんにちは。10月は稲刈りが行われ、無数のトンボが飛び交い、秋真っ只中という感じですね。

9月から掲げた目標は、農業にさらに取り組むという内容でした。その目標どおり、用水路の修復やビニールハウスの設営など、これまで経験したことのない作業もさせていただきました。また、活動の幅を広め、自然農法で農業をされている方の畑の見学もさせていただきました。この前の研修で、同期が「積極的に活動へ取り組み、得るものは大きくなる」と言っていました。まさに、そのとおりだと実感しました。

が仕上がりました。

秋になると様々な虫の鳴き声を聴くことができます。カンタンを聴く会に参加した時には、カンタンという虫の声を耳を澄まして聴き、日本古来の風情を味わうことができました。他にもマツムシやエンマコオロギの声を聴くこともできます。これだけ多くの虫の声を聴けるのは高山村ならではだと思います。

今月も引き続き、農業や村内イベントにしっかりと取り組みます。体調を崩さないよう頑張ります。

また、先月は村の俳句や短歌をつくる会で、俳句を教えていただきました。皆さん表現の仕方がとても豊富でした。その方たちに教えていただいたおかげで、私なりに良い作品



緑のふるさと協力隊ブログ <http://taka-midori10.jugem.jp/>